

侵略戦争を美化する「歴史教科書」 憲法9条の価値を認めず改憲を主張する「公民教科書」 採用に反対する共同声明に1227団体・個人が賛同

7月21日、「教育基本法の改悪をとめよう！岐阜連絡会」など5団体は、2006年度からの教科書として「新しい歴史教科書をつくる会」（以下「つくる会」）の歴史・公民教科書を採用することに反対する声明を発表しました。そして、この5団体の声明に対して反響は大きく、数日間の間に1227（団体47、個人1180人）の賛同署名が寄せられました。

7月27日から28日にかけて岐阜県下の教育委員会では、教科書選定の審議が予定されており、5団体は25日に大垣市教育委員会へ、また28日には岐阜市教育委員会を訪問し、「つくる会」の教科書を採用しないように申し入れました。

「つくる会」教科書 アジア諸国と日本の未来に 深刻な問題を！

「つくる会」の歴史教科書は日本による朝鮮半島・中国をはじめアジア諸国に対する侵略戦争を反省するどころか、これを美化しています。『韓国併合』は「日本の安全と満州の権益を防衛するために」必要だったと植民地支配を正当化しています。中国に対する侵略戦争も中国側に責任があると言わんばかりの記述です。

公民教科書は、日本国憲法9条の価値を認めず「朝鮮半島情勢は一層緊迫化し」と述べ、危機感をあおり立てています。南北朝鮮の対話や平和を築くための東アジア諸国連合の実績にはまったくふれていません。

日・韓・中の関係者が 手をつなぐ 画期的な5団体の声明

今回の「つくる会」の教科書は、過去の侵略戦争に対する歴史認識においても、また9条を変えて日本を「戦争ができる国」にしようとする内容からしても、周辺のアジア諸国関係者にとっては他人事ではない我が事として受け止めています。

特に、在日韓国人々にとっては、今回の教科書選定は大変深刻な問題です。「つくる会」の歴史教科書を使った授業は、日本の学校に通っている在日韓国の子ども達が自国を侵略した戦争を正当化した教育を受けることを意味します。

今回、「教育基本法の改悪をとめよう！岐阜連絡会」、「子どもと教科書・岐阜ネット」、「自由法曹団岐阜

支部」と一緒に「在日本大韓国民団岐阜県地方本部」と「日本中国友好協会岐阜県連合会」の5団体で共同声明を発表したことは、大変意味あることだと思います。

9条の会・おおがき 発足一周年記念上映会 映画「日本国憲法」 ～世界から見た私たちの憲法～

戦後60年目を迎えた2005年、自衛隊のイラク派兵をきっかけに憲法についての踏み込んだ議論がはじまりました。国内のあまりに性急な改憲への動きを、世界に視野を広げてみつめ直す、それがこの映画の出発点でした。憲法とは誰のためのものか、戦争の放棄を誓った前文や第9条をどう考えるのか。本作品は、憲法制定の経緯や平和憲法の意義について、世界的な知の巨人たちが語った貴重なインタビュー集です。

☆8月9日（火） 19:00～
真宗大谷派大垣別院（同朋会館）

☆入場料 大人1000円
（前売り券は900円）

お求めは、西濃法律事務所へ、TEL81-5105

お断り：今年も「ヒロシマ」へ行ってきました。8月第1週と第2週の金曜日は「スポット大垣」をお休みさせていただきます。
笹田トヨ子